古き友人松本に集う　・・岩大４４年電気科卒・・

昭和 40 年の春、未だ肌寒き北上の、かの宮沢賢治も学びし校舎の前にての記念撮影（鈴木守さん提供）

携帯電話を頼りに、浜島氏と会えた松本城にて･･･（浜島氏撮影）

盛岡メンバーとも合流し、再会の宴が始まり･･･（鈴木氏撮影）

41 年もの歳月を巻き戻し･･･最早いい雰囲気（鈴木氏撮影）

乾杯のビール･･･この永きにわたり一家を支えた逞しい腕･･･

今回の仕掛人・女鹿氏・・・人生の年輪か・・・優しい顔してる・・
山とスキーが好きで、彼の車で色んなところに出かけた・・・

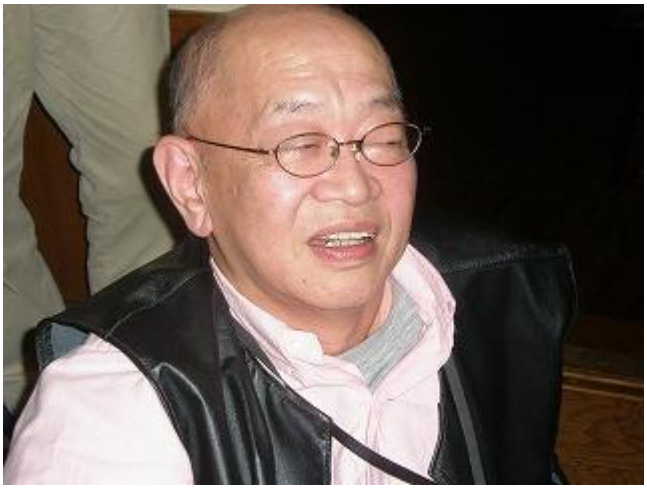
同期で一番のタフな男・太田氏・・・今日も東京から運転・・・
彼が下宿していた夕顔瀬橋界隈の話に花が咲く・・・

昔から真面目な人・鈴木氏・・・妥協しない人生を貫くか・・・
会社を辞し、大学院を経て、高校の数学の先生の道を・・・

熱血漢・笹川氏・・・彼とは卒業以来、初めての再会・・・
古いアルバムに立山の春スキーの写真を見つけた・・・

同袍寮で共に暮らした浜島氏・・・彼とも卒業以来の再会・・・
昔からスマートな浜島氏・・・年を重ねてダンディーに・・・
今日は名古屋から車で・・・松本城で合流・・・互いに再確認

空手部だった伊藤氏・・・今日は目を痛め眼帯をして・・・
空手部の練習に疲労困憊で、笹川さんが寮に連れてきた・・・
笹川さんからの便りに、バイクに乗り自宅までナビしたと・・・



労をいとわぬ世話人・飛世さん（電気科東京支部事務局）・・・
東京地区同期のまとめ役で、来年盛岡での同期会を企画中・・・

天気予報・雨が晴天、女鹿さんの先導で上高地へ・・・
白樺林の合間から、静かな水面の大正池が・・・

鏡のように穏やかな湖面に、少し色づき始めた山稜を映し出していた。子供の頃、山の上の湖で魚釣りしたのを思い出す・・・
そして、「ふるさとの山に向かいて言うことなし、ふるさとの山はありがたきかな」が浮かんできた・・・啄木は岩手山を見たのか・・・

松本に集いし面々・・・冒頭写真に比べ、黒々とした頭髪が 41 年の歳月に白髪交じりのナイスミドルへと、そして胴回りに貫禄が・・・
それでも皆、若い頃の面影を残しつつ歳を重ねた証だ・・・皆の心がけが好いから、予報に反して晴れたのだと女鹿さんが言う・・・
タクシーを降りた時の気温 14 度、このまま気温が上がれば、「かっぱばし」辺りから穂高連峰が望めるかもと、女鹿さんが・・・

活火山・焼岳は、晴天の秋の日差しに輝いていた・・・しかしながら、集合写真の背景・穂高連峰には、未だ霧が棚引いていた・・・

時折、腰が痛むとしゃがみこんでいた笹川さんも、霧が晴れるのを期待しながら歩みを進めた・・・

果して、今日の山の神は、願いを聞いてくれるだろうか・・・

鈴木さん撮影のスナップ写真・・・さすが鈴木さんの細やかな心遣いが、写し出された写真だ・・・

日頃の雑踏から解放され、ゆったりと自然の静寂を味わいながら散策を楽しむ仲間の雰囲気が見てとれる・・・

帝国ホテルでの一服・・・暖かいコーヒーとカマンベール・チーズケーキの味と語らいは、最高の贅沢に思えた・・・

少し暗めで高級感の漂うラウンジの壁には、小熊とカモシカの毛皮が飾られ、山小屋風のいかにも上高地の雰囲気・・・

橋の名前は覚えていないが、それぞれが思い思いの風景を楽しんでいた・・・

河原には、雪解け水での流木が横たわり、遠く山間の谷間に未だに残る残雪が、微かに見える・・・

鈴木さんが「春の季節はどうか」と女鹿さんに尋ねた・・・「やわらかに柳あおめる北上の岸辺目に見ゆ、泣けと如くに」啄木を・・・

「かっぱばし」に到着すると、早速女鹿さんが穂高連峰を望めるスポットに案内してくれた・・・

谷間に雪渓を残す山波は、八割かた霧が晴れたが、その全貌を現すまでには至らず、「次回の楽しみに」と言っていた・・・

とにかく、今日の最終目的地に着いたので、何枚かシャッターを押した。山好きの僕にとって、上高地は初めてだから・・・

「女鹿さん、左肩の斜面に雪がつけば、スキーで降りられそうだね」と、雪化粧の山波を想像したものだ・・・

「かっぱばし」の袂での集合写真を撮る。元気回復の伊藤さんが、「皆達者でまた会いたいもんだね」と帰りがけに言った・・・

駐車場近くで、のんびりと足湯に浸かり疲れを癒した。「15 分位浸かると血液が循環し、体が暖まる」と女鹿さんの博学・・・

この写真も鈴木氏の撮影・・・旅の終わりに、来年盛岡での同期会を約束して、互いに別れを告げた・・・